

8月13日(火)発行

15 YEARS 1974-2019

ミュージック開館15周年!

ほぼ

# 日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza



©青柳聡

## 音楽的に充実したフィナーレ!

### 【8/12(月休)東京交響楽団フィナーレコンサート】

連日の猛暑の中で続けられて来た2019年の「フェスタサマーミュージック」もいよいよフィナーレを迎えた。「フェスタ」に登場するのは2015年以来となる名匠・尾高忠明と、2018年の「浜松国際ピアノコンクール」で第1位を獲得したジャン・チャクムル(1997年生まれ)という、とても興味深い組み合わせのコンサートとなった。

前半には、そのチャクムルをソロに迎えたシューマンの「ピアノ協奏曲」が演奏された。長身で眼鏡をかけ、モジャモジャ・ヘアの

チャクムル。協奏曲の冒頭から粒立ちの良いタッチで、シューマンの世界を描いて行く。木管楽器のアンサンブルをじっくりと身体に染み込ませるように彼は聴いていた。その後も常にオーケストラとのアンサンブルに注意を払いながら、演奏して行く。とても室内楽的な温かさの広がる演奏だった。もちろん、独奏の部分では彼なりのロマンティックな音色、フレーズを聴かせてくれた。熱烈な拍手に応えてのアンコールでは、同じトルコ出身の先輩ピアニストであるファジル・サイの作品「ブラック・アース」を披露した。

後半はショスタコーヴィチの「交響曲第5番」。気迫を込めて奏でられた冒頭のチェロの音から最終楽章のクライマックスまで、すべての音符に注意が払われた演奏。ハーブのニュアンスまで丁寧に考えられた演奏には滅多に会うことがない。耳が洗われるような感覚で、作曲家の意図が伝わって来る。聴衆も一体となって緊張感を作り出したコンサートで、とても音楽的に充実したフィナーレとなった。

(片桐卓也/音楽ライター)

### 来場者の声

さすがフィナーレ!!満席で大いに盛り上がりつつも良かったです。横須賀から各演奏会に通った甲斐がありました!(80代・Happy-go-Lucky)/尾高さんの革命、実に名演でした。透明で凄みのある音楽が迫ってきました。本当に聴けて、こんな演奏に出会えて良かったです。(無記名)/本当に楽しそうにピアノを弾くチャクムル君に魅了されました。音楽とはまさに音を楽しむ、ということを実感して頂きました。今後がますます楽しみです。(50代・月のうさぎ)/チャクムル氏のリラックスして本当に楽しそうに奏でる姿には自然体を感じた。生は最

高!(50代・さなず)/尾高さん、東響の皆さん、ピアノのチャクムルさん、全てのパフォーマンスが最高でした!コンマスのニキティンさんもブラボー!サマーミュージック最高です!(50代・ぼわとちゃん)/今年はフィナーレしか来れず残念でしたが、リハーサルから気合を入れじっくり聞いて本当にパワー注入していただきました。来年も楽しみにしています。(50代・オレンジP)/大きくてきれいなホールで演奏を聞いて楽しかったです。はくりよくのある心の1ページにのこるすばらしい演奏でした。来年もぜひ行ってみたいです。(10代・えりぼん)/匠巻のフィナーレ。これでサマーミュージックも終わりかと少し寂しい気もしますが、マエストロ尾高の

元気な姿をみて自分もパワーをもらいました。また来年楽しみにしています。(50代・チバ)/チャクムルさんが聴けて本当に良かった、素晴らしい!尾高さん&東響の熱演も!チャクムルさんミュージックでリサイタルしてください。(無記名)/チャクムル君の特にアンコール曲にやられました!彼の存在そのもの、といった感じでまるで宝石のようなひとときでした。(60代・マノン)/最後に尾高先生のお話にあったように、私もミュージックの客席の雰囲気大好きです。音響の良いホールに、とても音楽が好き、という雰囲気の客席。今年もありがとうございました。(川崎のYoko)/匠巻!フィナーレコンサートにふさわしい演奏でした。素晴らしい

ミュージック公式インスタもフォローしてね!



いサマーミュージックでした。川崎在住としてお誉めいただいたこととても嬉しく思います。(70代・たくもえ)/誇らしい!サマーミュージックの公演を聴き終わって湧き起こった感情です。ここまで立派に成長したホール!ご尽力くださった方々に心から感謝します。(多幸ちゃん)/とても熱い演奏が聴けて大満足です。いつも綺麗にお掃除してくれていた方達、スタッフの皆さんに感謝!!(無記名)



# 大盛況の17日間!

完売5公演、過去最高タイ!

総来場者数は延べ3万2千人でした。ご来場ありがとうございました!



## 15年目の熱響へ!



(左上から)7/27東響オープニングファンファーレ・ノットの音中FESTA IS GO!の文字 | 7/28イツピアアノワールド・小川典子 | 7/28新日本フィル・上岡歌之 | 7/29都響・A.ギルバート | 7/30神奈川フィル・渡辺香津美&川瀬賢太郎の aran festa | 7/31読響・井上道義、渾身のブルックナー | 8/4山台フィル・アンコール「恋論」でWシンバル | 8/6東京シティフィル・情熱のG.ソリマ | 8/1洗足学園音大 | 8/3N響・反田恭平&原田慶太郎 | 8/7日本フィル・藤田真央&笑顔の小林研一郎 | 8/9昭和音大・齊藤一郎&古川展生 | 8/10真夏のパハV-いたずらっぽく微笑むルッツ。左隣は背筋を正して聴き入る伊藤正晃くん | 8/11東京フィル・高木綾子&D.エッチェンガー | 8/8サマーナイトジャズ・大西順子トリオ&ゲストミュージシャン | 8/12東響フィナーレ・チャコム&尾高忠明 | ©青柳聡

サマーミュージック公式サイト  
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>



#サマーミュージックで投稿してください!



Twitter : @summer\_muza



Facebook : @kawasaki.sym.hall



Instagram : @muzakawasaki

今年も公演レビューにご協力いただいた各執筆者の皆様、カメラマンの皆様にごからの感謝を。スタッフ&アルバイトさんもお疲れ様でした! 期間限定編集集も明日から普通の人の人に戻ります。では皆様、すてきな夏をお過ごしください。

今年特に感じたのは、サマーミュージックという祭には聴き手も作り手も皆、楽しんでいこう! 乗っかっていこう! という「面白がる力」わっしょい力ができているんだな、ということ。これこそがこの15年を培ってきたサマーミュージックの文化なんじゃないかと思えます。皆さんの「わっしょい」(x)無限大)がこの祭を何倍にも熱くしてくれているわけです。

昨日の感動をお届けします!!

ほほ 日刊サマーミュージック  
Hobo Nikkan Summer Muza

朝刊  
スタツフ日誌

15回目のサマーミュージックが終りました。今年もリニエール休館の影響でギョッと濃縮された17日間でしたが、完売公演も多く例年以上に盛り上がった夏になりました。